

# Market Flash

発表日: 2019年12月5日(木)

## なんだかんだで底堅い(米経済、IT 関連財)

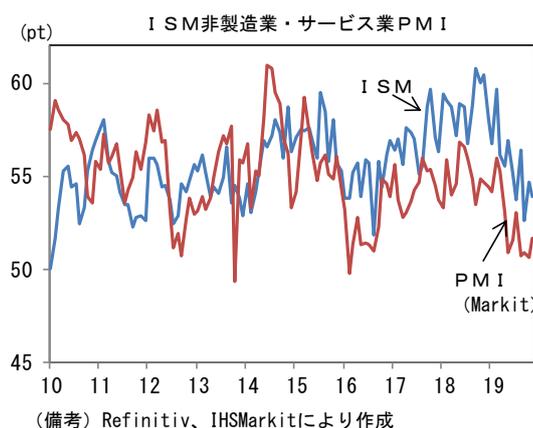
～自動車、住宅、資本財～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを検討するだろう。

### < # I S M非製造業 #米経済 #世界半導体売上 #住宅・自動車・資本財 >

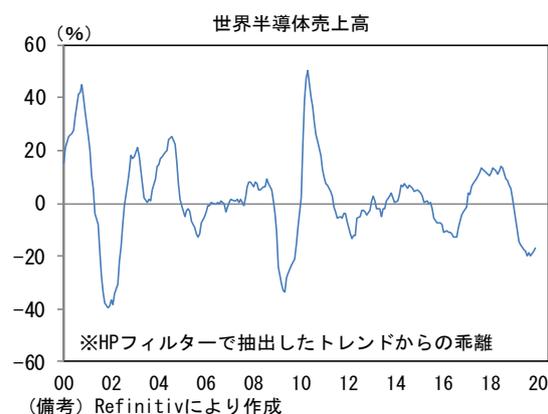
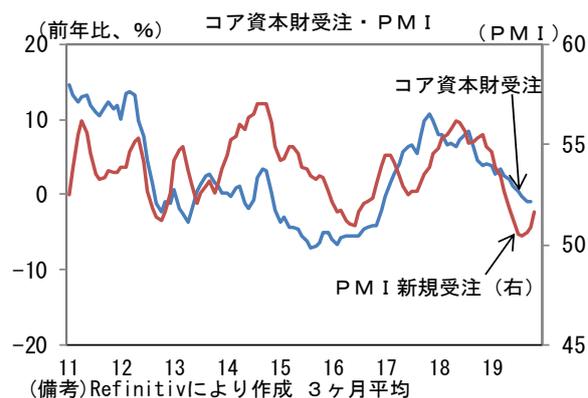
- ・11月の米I S M非製造業景況指数は53.9へと10月から0.8pt低下。市場予想(54.5)を下回った。内訳は事業活動(57.0→51.6)が大幅な低下を示した反面、新規受注が(55.6→57.1)改善し、重要項目の雇用(53.7→55.5)も水準を切り上げた。入荷遅延(52.5→51.5)は下押しに寄与。
- ・他方、類似指標のサービス業PMI(Markit)は51.6へと10月から1.0pt改善。統計の作成方法(サブ項目の構成およびウエイト等)に若干の違いがあるため一概に比較できないが、こちらでみるとサービスセクター(≒非製造業)は持ち直しに転じているようにみえる。
- ・これら2つの指標から判断すると、直近数ヶ月の業況は、良くも悪くも大きな変化がない模様である。なお足もとでは、I S M製造業景況指数と製造業PMIに著しい乖離が生じているが、サービスセクター(≒非製造業)においてそういった事象は観察されていない。



- ・その他米指標に目を向けると明るいものが多い。11月の米自動車販売台数は1700万台ペースを回復。2015年より続く高水準を維持しており健全そのもの。総販売台数に占めるライトトラックの比率が70%を超えて推移するなど販売ミックスの改善も示されている。またここへ来て住宅市場

も復調。FEDの利上げを受けた Mortgage金利上昇によって2018年後半から減速基調にあったが、ここへ来て中古住宅、新築住宅、住宅着工は何れも持ち直し、建築業者の景況感は大幅に改善している。NAHB住宅市場指数は70とブーム領域に到達。そして設備投資の再加速に期待を持たせるデータもある。コア資本財受注と連動性を有する製造業PMIの新規受注は夏場をボトムに上向きつつあり、コア資本財の増加を示唆している。

- ・またグローバルな視点では世界半導体売上高の底打ちが明確化しつつある。3日に発表された10月の出荷額（売上高）は前年比▲13.1%へと下落幅縮小し、水準も明確に上向いた。シリコンサイクルの好転を印象付ける結果であった。



### 【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株高を受けて高寄り後、もみ合い（前引け）。日経平均は23300円近傍へ上伸。

### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は反発。米中通商交渉の早期合意期待が復活。WTI原油は58.43（+2.18%）。
- ・前日のG10通貨はUSDが堅調。他方、前日までの反動もありJPYは軟調。USD/JPYは108後半を回復。EUR/USDは1.10後半で一進一退。その他ではBOCの利下げを見送りを受けCADが上昇。
- ・前日の米10年金利は1.771%（+5.5bp）で引け。3日の大幅低下の反動もあり、この日のカーブはベアフラット。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.317%、+3.3bp）、フランス、イタリア、スペインが何れも金利上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

